

新潟県立大学では、平成21年の開学以来、地域の皆様を対象にした有意義な公開講座を開催してきました。令和元年度は、知的障がい者の卓球世界ランキング上位の美遠さゆりさんと、その母、まゆみさんの講演を中心に、BSN新潟放送の久能木百香さんの事前取材に基づくお話を交えながら、地域や家族の支え合いの大切さなどについて考える講座を開催しました。

地域と家族のチカラで 新潟から世界へ

～東京パラリンピック出場を目指す女性アスリートの軌跡～



(左から)美遠まゆみさん、美遠さゆりさん、久能木百香さん、斎藤裕教授

新潟から東京パラリンピック出場を目指している女性アスリートとそのお母様をお招きして、地域と家族に支えられながら世界で活躍してきたこれまでの軌跡についてお話しいただきました。新潟市在住で知的障がい者卓球の日本ランキング1位、世界ランキング10位(11月1日現在)の美遠さゆりさんと、母親の美遠まゆみさんです。母親のまゆみさんは、知的障がいがありながら卓球に取り組む娘のさゆりさんに寄り添いながら、「卓球を通して成長していく娘の笑顔を見るのが何よりも嬉しい」と母親としての想いを語っていただきました。一方で、知的障がいは見た目ではわかりにくく、知的障がい者卓球での活躍ぶりに対して理解のない人たちもいたといいます。「人を見ただけでは判断しないでほしい」と繰り返すお話しは、参加者の心に響く内容となりました。

また、報道番組で美遠さん親子を取材されたBSN新潟放送アナウンサーの久能木百香さんも講師にお招きし、アスリートを取材する立場から、家族や地域、社会とのかかわりについてお話をいただきました。

後半は、斎藤地域連携センター長を加えたトークセッションが実施されました。美遠さん親子から、卓球との出会いを通じてさまざまな人と関わることで成長できたことや、パラリンピック出場を目指すようになってからはさらに多くの地域の方々を支えられてきたので、今後は、練習を重ね前進する姿を見ていただくことで恩返しできれば嬉しいとの思いを語っていただきました。私たちがさゆりさん親子を応援しているつもりが、さゆりさん親子の経験や成長を目の当たりにした私たちのほうが勇気ももらっていることに気がつく公開講座となりました。

なお、本公開講座は、BSN新潟放送、みらい子育てネット・新潟との共催で実施しました。

公開講座レポート

開会あいさつ 斎藤 裕教授 地域連携センター長

私たちは、人生を歩んでいく中で予想もしない困難に出会うことがあると思います。その時に誰とどのようにそれを乗り越えたらよいか、その答えの一つは地域にあるのではないかと考えています。

これから久能木百香さん、美遠まゆみさん、さゆりさんにお話をいただきます。さゆりさんの活躍とそれを支えた地域の方々についてお話があると思います。特にこれから社会に出ていく学生の皆さんが困難に立ち向かう際に今日のお話が助けになることを願っています。

講演1 久能木 百香さん

BSN新潟放送メディア本部アナウンス部アナウンサー



取材前には、取材対象者と取材に関係のない話をして、その人と打ち解けた関係になれるように心掛けています。そうすることで、その人本来の人物を知ることができます。美遠さゆりさん取材する中で、何より印象的であったのは、さゆりさんの笑顔で、その笑顔によって周りの人から愛され、コーチ、家族、地域の方々から応援されているのだなと感じました。アナウンサーは男性・女性に関係なく、結婚しても長く働くことができる職業です。そこが魅力で私はこの職業を選びました。また、今回の取材では私がさゆりさんに取材したいという思いから、報道デスクにかけあって実現したもので、このように自分がしたいと思う取材をして、視聴者に伝えることができる職業です。学生のみなさんの中にも、マスコミに興味をもってくださる学生がいたら嬉しいです。

日時 令和元年12月8日(日)
14:00から16:40まで

会場 新潟県立大学 大学院棟1階 4101大講義室

講師 久能木百香さん (BSN新潟放送アナウンサー)
美遠まゆみさん (美遠さゆりさんのお母様)
美遠さゆりさん (卓球<知的障がい>強化指定選手 日本代表)

共催 BSN新潟放送、みらい子育てネット・新潟

後援 新潟県、新潟市、新潟日报社、NHK新潟放送局

公開講座プログラム

14:00	開会・開会あいさつ
14:05~14:35	講演1 久能木 百香さん
14:40~15:10	講演2 美遠 まゆみさん
15:25~15:55	講演3 美遠 さゆりさん
16:05~16:35	登壇者によるトークセッション
16:35	閉会あいさつ
16:40	閉会

講演2 美遠まゆみさん

美遠さゆりさんのお母様



さゆりが特別支援学校の高等部に入学した時、全国障害者スポーツ大会があることを聞いて、さゆりが中学校時代に卓球部に入っていて、家に卓球のラケットがあったことから、それなら頑張ってみようとして卓球教室に通うようになったのが、卓球にのめり込んでいきかけとなりました。2017年の国内でのチャンピオンリーグ大会で優勝したことで日本代表となり、そこから地元の新潟市から助成金をいただいたり、スポーツ用品店から卓球用品を提供していただくようになりました。新潟県の障害者スポーツ協会やライオンズクラブからも助成をいただいています。さゆりの兄弟もさゆりの活躍を喜んで応援してくれていますが、体育館で練習中に利用者から「応援しています」と声をかけてもらうのも嬉しいです。こうした応援に昔は恥ずかしくて私の背中に隠れていたさゆりが、今では「頑張ります」と笑顔で答えられるようになったことが、私にとってこれまでの頑張りの何よりもご褒美と思っています。ただ、さゆりの持つ障がいが知的障がいで見えない障がいであることから、「何が障がいだ」と心無い言葉を受けることもあります。どうか見た目だけでは判断しないでください。その障がいを理解し、受け入れ、一つでも良いところを伸ばそうという気持ちをもった人が増えれば、きっとスポーツに限らず、もっと力を伸ばせる障がいが増えるのではないかと思います。知的障がいの子をもつ母親が心穏やかに子育てできる、そして子どもが健やかに育っていきける世の中になったらいいなと思っています。

講演3 美遠さゆりさん

卓球<知的障がい>強化指定選手 日本代表



今の世界ランキングのままでは、東京パラリンピックに出場することは難しい状況です。今後できる限り海外の試合に出場し、そこで優勝することで出場権を獲得して、夢を叶えたいと思っています。また、東京パラリンピックの会場のベンチにコーチを座らせることができれば、少しでもコーチへの恩返しになるかなと思っています。今は東京パラリンピックに出場することが夢ですが、その先卓球を続けるか、その次のパラリンピックを目指すかまでは決まっていません。ただ自分を見て知的障がいをはじめ障がいをもっている子どもたちが卓球でなくてもスポーツを始めてくれたら嬉しいと思っています。東京パラリンピックが終わっても何かを与えていける存在になればいいなと思っています。

登壇者によるトークセッション

斎藤 裕教授 地域連携センター長

今、自分の責任は全て自分で引き受ける「自己責任」という言葉がよく使われているけれど、そうではなくて、少しずつみんなが責任や迷惑を引き受け合う、そして支え合う。社会や地域ってというのはそうでなければいけないのではないのでしょうか。困っている人がいれば、もっとみんなが「どうしました」と声をかけたり、あるいは当事者も「手を貸してください」と遠慮なく言ってい世の中になってほしいと思います。そんな思いもあって、今回地域連携センターでは、地域と家族とみんなで力を少しずつ与え合って、前に進んでいこうというテーマを選ばせていただきました。久能木さん、美遠さん、本当に貴重なお話をありがとうございました。

参加者の声 (アンケートより)

- 障がいを持っている方への声のかけ方や接し方が学べました。
- 自分の強い意志と周りの人の支えがあれば、色々な困難も乗り越えられるのだと思いました。
- 私も今日のお話を聞いてさゆりさんのファンになりました。ぜひ東京パラリンピックという夢を叶えてください！心から応援しています!!